

「第 65 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 3 年 9 月 30 日（木） 15 時 00 分
都庁第一本庁舎 7 階 特別会議室（庁議室）

【危機管理監】

それでは第 65 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。
本日の会議には、感染症の専門家といたしまして、新型コロナタスクフォースのメンバーの、東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生。

そして国立国際医療研究センター、国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生。
そして東京 i CDC 専門家ボードからは、座長でいらっしゃいます賀来先生にご出席をいただいています。よろしくお願いをいたします。

なお武市副知事、宮坂副知事ほか八名の方、ウェブでの参加となっております。

それでは早速ですが議事に入って参ります。まず感染状況、医療提供体制の分析につきまして、感染状況について大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

はい。それではご報告をいたします。総括でありますけれども、色は橙色としております。感染の再拡大に、警戒が必要であると思われるとしております。新規陽性者数の増加比であります。6 週間連続して低下を続けております。

感染拡大のリスクが高くなる冬に備えて、再び増加比が上昇に転じないように、感染防止対策及びワクチンの接種を推進し、感染の拡大を抑える必要があるといたしました。

それでは詳細についてご報告をいたします。

まずは①です。新規陽性者数でございます。

新規陽性者数 7 日間平均であります。前回は 1 日当たり約 572 人、今回が 1 日当たり 296 人。減少しておりますものの、高い値で推移をしております。増加比をとりますと 52% ございました。

このように新規陽性者数の 7 日間平均は、9 月 29 日時点で、1 日当たり 296 人と第 4 波と第 5 波の間の最小値を下回る水準まで減少しております。

ワクチンの接種が進んだことや、多くの都民と事業者が自ら感染防止対策に取り組んだことなどによるものと考えられます。

感染拡大のリスクが高くなる冬に備えて、新規陽性者数を徹底的に減らしておく必要があります。手洗い、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、3 密、密閉・密集・密接

の回避、換気の励行及びなるべく人混みを避け、人との間隔をあけるなど、基本的な感染防止対策を徹底する必要があります。

新規陽性者数の増加比ではありますが、6週間連続して低下しております。ただし、連休及び休日で検査件数が減少した影響には留意する必要があります。

再び増加比が上昇に転じて100%を超えないよう、感染防止対策及びワクチンの接種を推進し、感染拡大を徹底的に抑える必要があります。

東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイトによりますと、9月28日時点で、東京都のワクチンの接種状況は、全人口で1回目が66.1%、2回目が56.7%、12歳以上では1回目が72.8%、2回目が62.5%、65歳以上では1回目が88.8%、2回目が87.3%であります。

ワクチンの接種を検討中の都民に対して、感染拡大のリスクが高くなる冬に向けて、ワクチンの接種は、重症化の予防効果と死亡率の低下が期待されていることを周知する必要があります。

一方で、ワクチンを接種した後の新規陽性者が報告されています。ワクチンを2回接種した後も感染し、本人は軽症や無症状であっても、周囲の人に感染させるリスクがあることを啓発する必要があります。ワクチンを接種した後も、普段会っていない人との飲食や旅行、感染リスクの高い行動を引き続き避けるとともに、基本的な感染防止対策を徹底する必要があります。

医療機関では、多くの医療人材をワクチンの接種に充てております。都はワクチン接種のための求人情報を登録者に提供する「東京都新型コロナウイルスワクチン接種人材バンク」を立ち上げて、ワクチン接種体制の強化を進めております。

次に①-2に移って参ります。

年代別の構成ではありますが、50代以下の割合が新規陽性者全体の約90%を占めております。中でも、20代が25.8%と各年代の中で最も高い割合となっております。

10代以下ではありますが、割合は17.8%であって、8月以降、高い水準で推移しています。12歳未満はワクチン接種の対象外であることから、保育園、幼稚園や学校生活での感染防止対策の徹底が求められます。社会全体で子供を守るという意識の啓発が必要です。

また、感染の中心である若年層を含めたあらゆる世代が感染によるリスクを有しているという意識を持つよう、改めて啓発する必要があります。

次①-3に移って参ります。新規陽性者に占める65歳以上の高齢者数でありますけれども、前週が390人、今週は187人と減少はしておりますが、割合は7.4%から8.1%と上昇する傾向にあります。

この数の7日間平均ではありますが、前回は1日当たり45人、今回は1日当たり約27人でございました。

重症化リスクが高く、入院期間も長期化することが多い高齢者層の感染者数であります

が、これは5週間連続して下がってきておりますけれども、その割合を見ますと、8週間連続して上がっております。家庭内及び施設等での徹底した感染防止対策が重要であります。

今週も医療機関そして高齢者施設等での感染者の発生が引き続き報告されています。ワクチンを2回接種した職員及び患者、入所者にも厳重な感染防止対策が必要であります。都は感染対策の支援チームを派遣して、施設の支援をしています。

また、都は、精神科病院及び療養病床を持つ病院、高齢者施設や障がい者施設の職員を対象として、定期的なスクリーニング検査を行っています。感染拡大を防止するために、多くの施設が参加する必要がございます。

次に①-5に移って参ります。濃厚接触者における感染経路別の割合であります。同居する人からの感染が今回70%と最も多かったという状況であります。これに次いで職場での感染が12%、施設及び通所介護の施設での感染が6.7%、会食による感染が2.1%でありました。

濃厚接触者における施設等での感染者の割合でありますけれども、10代以下及び60代以上で高く、また、会食による感染者数の割合であります。これは依然として、20代が高いです。

また、9月13日から19日までに報告された新規陽性者数における同一感染源から2例以上の発生事例、これを見ますと、医療機関、福祉施設及び学校・教育施設での発生が同じく4件ずつでございました。感染に気がつかないままウイルスが持ち込まれて、職場、施設そして家庭など、多岐にわたる場面で感染例が発生しています。緊急事態宣言が解除され、規制が緩和される場合においても、基本的な感染防止対策を、これは引き続き徹底することが必要であります。

施設等での感染であります。10代以下及び60代以上で割合が高いです。保育園、幼稚園、小中学校、高校等での感染事例が散見されております。若年層への感染拡大及び子から親への感染など、家庭での感染拡大に注意するとともに、高齢者施設等における感染防止対策の徹底が必要であります。

職場での感染者数は115人です。20代が最も多いです。事業者には従業員が体調不良の場合に受診や休暇の取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、時差通勤、オンライン会議の推進、出張の自粛など3密を回避する環境整備等に取り組むことが引き続き求められます。

会食であります。これによる感染は特に20代を中心に若い世代で割合が高いです。普段会っていない人との会食、そして旅行は特に避ける必要があります。

友人や同僚等との会食、公園や路上での飲み会等は、これはマスクを外す機会が多く、そのまま会話を続けることなどによって、感染リスクが高いことを繰り返し啓発する必要があります。

次①-6に移って参ります。無症状者であります。今週の新規陽性者2,317人のうち、無症状の陽性の方が285人、割合は12.3%でありました。こうした無症状あるいは症状の

乏しい感染者からも感染が広がっている可能性はあります。症状がなくとも感染源となるリスクがあることに留意して、日常生活を過ごす必要があります。

次①-7に移って参ります。今週の保健所別の届出数であります。江戸川が167人と最も多くて、それに次ぎますのが足立で160人、そして世田谷が134人、新宿区が130人、葛飾区及びみなが同数の113人の順であります。各保健所管内では、ご覧のとおり新規陽性者の発生は減少傾向にあります。感染の再拡大に備える必要がございます。

次①-8に移って参ります。都内の保健所のうち、約23%にあたる7つの保健所で、それぞれ100人を超える新規陽性者数が報告されて、これは高い水準で推移をしております。

次①-9に移ります。これを人口10万人当たりでならしてみますと、区部の保健所です。ね、地図でいきますと、右の端でありますけども、高い水準で推移をしております。これより、特に新規陽性者数が下がり切らない地域では、感染の再拡大に注意する必要がございます。

次②に移って参ります。#7119における発熱等の相談件数であります。7日間平均は前回は74.1件、今回は66件であります。減少しています。

発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均に関しては、前回は約1,227件、今回は9月29日時点で約928件であります。高い水準で推移をしております。

#7119の7日平均であります。依然として高い水準で推移をしております。引き続き注意が必要でございます。

次③に移って参ります。新規陽性者における接触歴等の不明者数・増加比であります。けども、7日間平均で、前回の1日当たり約322人から、今回は1日当たり約176人に減少しております。この数であります。6週間連続して減少しています。第三者からの感染経路が追えない潜在的な感染を防ぐためには、基本的な感染防止対策を常に徹底することが必要であります。

次③-2に移ります。この増加比を見ていきますと、今回は約55%でございました。今後増加比が上昇に転じることに、警戒が必要でございます。

次③-3に移って参ります。今週の新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合を見ますと、前週が約55%、今週は約59%であります。

不明者の割合であります。20代から50代で60%を超えております。このように20代から50代で接触歴等不明者の割合が60%を超えておまして、いつどこで感染したか分からないとする陽性者が、これは幅広い世代で高い割合となっております。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。続きまして医療提供体制につきまして、猪口先生からお願いいたします。

【猪口先生】

はい。それでは医療提供体制について報告させていただきます。残念ながらですが色はまだ赤であります。

総括コメントとして、通常の医療が大きく制限されていると思われるといたしました。

重症患者数は高い水準で推移しており、医療提供体制の負担が大きい状況にあります。この状況下で新規陽性者数が増加に転じると、重症患者数は高い水準からの増加となるため、短期間で危機的状況となるとしております。

では詳細につきまして④ですね。検査の陽性率です。

7日間平均のPCR検査等の陽性率は前回の5.5%から、今回は3.3%に低下いたしました。PCR検査等件数がほぼ横ばいで推移する一方、新規陽性者数が減少したため、PCR検査等の陽性率は低下いたしました。

都は、都民が速やかにPCR検査等を受けられるよう、診療・検査医療機関に対して、診療時間や予約枠の見直しや工夫をするなどの協力要請を行うとともに、公表を了解した診療・検査医療機関のリストをホームページ上に公表しております。

これを利用して、隣の席の同僚が陽性になったなど、自分に濃厚接触者の可能性がある場合は、医療機関に相談、受診し、医師の判断に基づく行政検査を速やかに受けるよう、都民に周知する必要があります。

都は医療機関や高齢者施設等の定期的なスクリーニングや繁華街、特定の地域や大学等での、感染拡大の兆候を掴むため、モニタリング検査を継続して実施しております。

⑤です。救急医療の東京ルールの適用件数。

適用件数の7日間平均は、前回の61.0件から、今回59.0件と、依然として高い水準で推移しております。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前と比較して高い水準で推移しており、二次救急医療機関や救命救急センターでの救急受入れ体制は改善傾向にありますが、困難な状況は続いております。

また、救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、短縮傾向ではありますがけれども過去の水準と比べると、依然として延伸しております。

⑥-1。入院患者数は、前回の2,046人から1,181人に減少いたしました。

新規陽性者数は減少したものの、入院患者数は新規陽性者数の動きに遅れて減少しており、この状況下で、新規陽性者数が増加に転じると、入院患者数は高い水準からの増加となります。このため、感染拡大のリスクが高くなる冬に備え、新規陽性者数を徹底的に減らしておく必要があります。

都は、入院重点医療機関等の協力により、重症用病床503床、中等症等用病床6,080床、合計6,583床の病床を確保しております。また、療養期間が終了し、回復期にある患者の転院を積極的に受け入れる回復期支援病床を1,785床確保しております。

現在都は医療機関、酸素・医療提供ステーション、宿泊療養施設及び在宅における中和抗

体薬の投与を進めております。中和抗体薬は、発症後 7 日以内に投与する必要があり、今後、再び感染拡大した場合にも早期投与ができる仕組みの検討を重ねております。

陽性患者の入院と退院時には、通常の患者より多くの人手、労力と時間が必要であり、医療機関の負担となっております。

保健所から入院調整本部への調整依頼件数は、9 月 29 日時点で 1 日当たり約 20 件と、改善しております。

⑥-2 です。入院患者に占める 60 代以下の割合は約 77%と継続して高い水準にあります。50 代が最も多く、全体の約 22%を占め、次いで 40 代が 18%でありました。70 代以上の割合が上昇傾向にあります。

一方で、10 代以下の入院患者が継続して発生しており、保育園、幼稚園や学校等での感染拡大の可能性を踏まえた、小児のクラスター対策及び小児病床の確保が必要です。

7 月以降の妊婦の感染者急増を踏まえ、周産期医療体制を充実する必要がありますので、都は周産期母子医療センター、周産期連携病院、分娩取扱い医療機関等に対し、診療体制の確保を依頼いたしました。

⑥-3 です。検査陽性者の全療養者数は 6,872 人から 3,532 人に減少いたしましたが、依然として高い水準にあります。

内訳は、入院患者が前回の 2,046 人から 1,181 人、宿泊療養者は 835 人から 486 人、自宅療養者が 3,085 人から 1,374 人、入院・療養等調整中が 906 人から 491 人となりました。

全療養者に占める入院患者の割合は約 33%まで上昇いたしましたが、宿泊療養者の割合は約 14%と依然として低い水準にとどまっております。今週は自宅療養中の死亡者が 3 人、40 代が 1 人、70 代が 1 人、90 代が 1 人でありました。

感染拡大のリスクが高くなる冬に備え、入院・宿泊及び自宅療養の体制を総合的に検討する必要があります。

自宅療養者の健康観察は陽性と判明した直後から開始する必要があります。このため、保健所の健康観察が始まる前から、かかりつけ医や診療・検査医療機関が実施するよう、東京都医師会が中心となり、取組を進めております。

都は現在、17 か所の宿泊療養施設を確保し、療養者の安全を最優先に運営を行っております。家族と同居しているなどの理由で、自宅療養が困難な感染者の受入れを進めるなど、宿泊療養施設の効率的な運営に取り組んでおります。

⑦-1、重症患者数です。重症患者数は前回の 146 人から、今回 107 人に減少しましたが、未だ高い水準で推移しております。

今週新たに人工呼吸器を装着した患者は 25 人であり、人工呼吸器から離脱した患者は 37 人、人工呼吸器使用中に死亡した患者は 22 人でありました。

重症患者 107 人中 19 人が ECMO を使用しております。

9 月 29 日時点で集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者は 307 人で、そのうちネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者 78 人が含まれております。

重症患者数は100人を超える高い水準で推移しており、挿管期間が14日以上の方が約78%を占めており、未だ医療提供体制への負担が大きい状況にあります。この状況下で新規陽性者数が増加に転じると、重症患者数は高い水準からの増加となるため短期間で危機的状況となります。

今週は新規陽性者の約1.1%が重症化いたしました。今週、人工呼吸器を離脱した患者の装着から離脱までの日数の中央値は13.5日、平均値は17.8日でありました。

⑦-2です。重症患者数107人の年代別内訳は、10歳未満が1人、20代が3人、30代が2人、40代が13人、50代が45人、60代が29人、70代が11人、80代が3人です。性別では、男性が77人、女性が30人でありました。

50代が最も多くを占めており、次いで60代が多く、40代から60代までが、重症患者全体の約81%を占めております。

今週報告された死亡者数は82人でありました。累計の死亡者数は2,908人となっております。今週報告された死亡者は40代以下が6人、50代が17人、60代が11人、70代以上が48人でありました。

新規重症患者数の7日間平均は、9月22日時点の5.7人から、9月29日時点の3.0人に減少しております。

今週新たに人工呼吸器を装着した患者は25人であり、新規重症患者は減少しております。

一方、重症患者の多くは挿管期間が14日以上に及ぶ長期化した重症患者となっております。

私の方からは以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。それでは意見交換に移ります。まずただいまご説明のありました分析シートの内容につきまして、ご質問等ございますか。

よろしければ都の今後の対応に移ります。この場でご報告等ある方いらっしゃいますか。

なければ賀来先生から、総括のコメントと、そして都内主要繁華街におけます滞留人口のモニタリング、重症者数死亡者数の推移、そして都内の変異株スクリーニングの実施状況につきまして、ご説明をお願いいたします。

【賀来先生】

はい。まず分析報告の総括コメントをさせていただき、西田先生にかわり繁華街滞留人口について、続いて重症者数、死亡者数の推移、変異株についてコメントをさせていただきます。

ただいま大曲先生、猪口先生から新規陽性者数の増加比が6週間連続で減少を続けているものの、重症患者数はいまだに高い水準で、推移していると報告がありました。

また、感染拡大のリスクが高くなる冬に向けて、新規陽性者数が増加すれば、重症患者数

が高い水準からの増加となるため、短期間で医療提供体制が危機的状況となり得るとの報告がありました。

そのような状況を避けるためにも、今後も引き続き、ワクチン接種や抗体カクテル療法などを推進するとともに、全世代での感染防止対策の徹底を、図っていく必要があると思います。

それでは、都内主要繁華街の滞留人口の状況につきまして、西田先生の資料をもとにご説明させていただきます。

次のスライドをお願いします。はじめに、人流の分析の要点について申し上げます。レジャー目的の夜間繁華街滞留人口は顕著に増加することはなく、一定のところで踏みとどまっております。宣言期間を通じて、長期にわたり、多くの方々が、夜間の会食を控えるなど協力を続けていただいた様子がうかがえます。

それでは個別のデータについて簡単に説明させていただきます。

次のスライドをお願いします。夜間滞留人口は、直近1週間では微増していますが、新規感染者数の減少、宣言長期化といった条件にもかかわらず、顕著に増加することなく、一定のところで踏みとどまっています。

次の資料をお願いします。こちらは、各時間帯の滞留人口の推移を、日別で示したものです。

次をお願いします。こちらは、宣言発出前と発出後の滞留人口の水準を示したものです。減少しているのがわかります。

続いてこのスライドは、レジャー目的で繁華街に夜間滞留している人々の年齢階層別の割合、占有率を示したものです。

引き続き深夜帯を含むすべての時間帯で、中高年層が若年層を上回っています。ただし、18時から22時においては、若年層の割合が増加しています。

次のスライドをお願いします。こちらは夜間滞留人口と実効再生産数の推移を示したグラフです。前週の0.66から実効再生産数は0.62まで下降してきております。

次のスライドをお願いします。こちらは、大型ショッピングセンター内のフードコートの滞留人口です。23区東部西多摩エリアを除く地域、都心部などでは減少しています。

次のスライドをお願いします。最後にステイホーム率についてです。5キロ圏内、3キロ圏内いずれも、ほぼ横ばいで推移しています。新規業者数は減少を続けていますが、感染の拡大が懸念されており、さらに減少させる必要があります。

宣言解除後に、レジャー目的の夜間滞留人口が急増すれば、リバウンドのリスクがあることから、解除後においては、夜間滞留人口や実効再生産数の推移を、注視しつつ、緩和を段階的に進めていくことが重要です。

続きまして、重症者数と死亡者数の推移についての資料を示します。こちらの資料は、昨年12月15日から本年9月14日までの期間を3ヶ月ごとの期間に区切り、それぞれの機関における新規陽性者数、重症者数、陽性者数に占める重症者数の割合、各年代における10万人当たりの発生数を、表にしたものです。下段は同期間内の新規陽性者数、重症者数、そ

して、65歳以上と65歳未満の2回目のワクチン接種率をグラフ化しております。

下のグラフをご覧ください。6月15日以降、陽性者数の絶対数は増えているものの、重症者の山が抑えられています。

表を見ていただきますと、全年齢の陽性者数に占める重症者の割合は、0.93%、0.83%、0.66%と微減しているということがいえると思います。

また直近3ヶ月における、50代以下の陽性者数に占める重症者数の割合は、若干の増加が見られますが、同期間において、ワクチン接種が80%を超えるぐらいに進んでいる高齢層においては、3.54%、3.78%、3.27%と減少しています。

次のスライドをお願いします。こちらの資料は、先ほどの重症者数の数値を死亡者数に置き換えたものです。

まず、グラフについてですが、死亡者についても、先週のモニタリング会議で報告した通り、陽性者数に占める死亡者の割合が減少していることから、6月15日以降、死亡者の山が大きく抑えられています。

次に表をご覧ください。全年齢の陽性者数に占める死亡者の割合は、1.7%、0.97%、0.31%と減少傾向にあります。特に、感染リスクの高い60代以上では、12月からの、3ヶ月間は7.65%、3月からの3ヶ月間は6.07%、高齢層において、ワクチン接種が進んだ6月からの直近3ヶ月では3.65%と減少傾向が見られます。

また、50代以下においては現時点でやや微増はしていますが、今後ワクチン接種が進むにつれて、死亡の発生を抑える効果が期待できるのではないかと考えられます。

なお、ここでお示しした数字をどうとらえるか、その解釈につきましては今後引き続き東京iCDCでの解析を進め、ワクチン接種による効果等についての分析を図り、情報発信に努めて参りたいと思います。

続きまして、変異株の都内発生状況についてコメントを申し上げます。

変異株PCRの検査実施数は、9月13日の週は、現時点で約2200例となり、検査実施率は39.7%となっています。

デルタ株などのL452R変異株の陽性率は、9月6日の週では90.4%となり、6週連続で9割を超えています。

スクリーニング検査では、変異があるかないかわからない判定不能分がありますが、都内ではほぼ完全にL452R変異株に置き換わったと考えられます。

次の資料をお願いします。このグラフは、隣のL452R変異株とN501Y変異株の陽性率の推移を見たものです。このスクリーニング検査でも初めて陽性が確認された時点から、同じ20週目を見ますと、N501Y変異株の陽性率は84.7%でしたが、L452R変異株は、90%のラインを超えて、6週目となっています。

N501Y変異株はL452R変異株の発生が確認され、その後、L452R変異株に急速に置き換わりが進んでいます。現在、L452R変異株が90%を超えた状態が続いていますが、新たな変異株の発生が確認されてはおりません。

今後もスクリーニングを通じて、都内変異株の流行状況をしっかりと監視していくことが重要かと思われます。変異株であっても、基本的な感染予防対策は変わりありません。

感染力が強い、デルタ株が広がっている現在の状況においては、ワクチン接種を確実に進めるとともに、改めて3密の回避、マスクの正しい着用、手洗い、換気など、基本的な感染予防を徹底していくことが大変重要です。

なお、ワクチン接種後であっても油断せず、基本的な感染予防を継続していたことが大変重要であると思われます。

スライド続きまして3枚目、4枚目につきましては、説明を割愛させていただきます。

私からは以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。ただいまの賀来先生からのご説明について、何かご質問等ございますか。

よろしければ、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【知事】

はい。第65回のモニタリング会議に猪口先生、大曲先生、賀来先生、ご足労をおかけいたしております、ありがとうございます。また分析に関わっていただいている皆さんに感謝申し上げます。

そこで、感染状況について、今回は、昨年11月19日の会議以外になりますが、これずっと赤だったわけですが、今回、オレンジ色に一段、下がったわけでありまして。一方で、医療提供体制については、引き続き、赤色の総括コメントとなっております。

先生方から、新規陽性者数の増加比が6週間連続して低下をし、再び低下をしていると。再び増加比が上昇に転じないように、感染防止対策及びワクチン接種を推進して、感染拡大を抑える必要があると。また重症患者数は高い水準での推移が続いていて、医療提供体制の負担は大きいとのご報告でございました。

そして賀来先生から、繁華街の夜間滞留人口について、顕著に増加することなく、一定のところで踏みとどまっているという、調査報告をいただきました。で、宣言解除後夜間滞留人口が急増いたしますと、リバウンドのリスクがあるとの言葉をいただいております。

また、重症者数、死亡者数の推移について、高齢者の陽性率、高齢層の陽性者に占める比率が、ワクチンの接種が進んだ今年の6月中旬以降とそれ以前を比べますと、減少をしていると、そのご報告をいただいたところ、わかりやすいご報告をいただいたところでございます。

以上を踏まえまして、皆さんへのお願いであります。いよいよ明日から10月24日まで、リバウンド防止措置期間へと移行をいたします。都民の皆様には、まず、外出は少人数でお願いする。夜の繁華街など、混雑している場所や時間を避けての行動をお願いいたします。

旅行、出張などで都と県の境を越えて移動する際は、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

そして事業者の皆様方には、引き続きテレワークの活用、そして、休暇取得の促進などで、出勤者の 7 割削減。こちらの方は引き続きお願いいたします。また出勤する場合も遅くとも 20 時までには終業し、帰宅をしてください。

なお、ちょうど台風 16 号が関東地方に向かってきているということから、これからの情報をよく踏まえて、出勤等々工夫をしていただきたいと思います。

それからワクチン接種体制であります。現在都庁の北と南の展望室、そして立川北のワクチン接種センターでは、今日の予約受付開始分から、都内在住、在勤、在学の 12 歳以上のすべての方が対象となります。

そして、渋谷区が住民接種の会場として、これまで運用してきた渋谷の NHK の渋谷フレンドシップシアターですが、この一部を 10 月の 5 日から 11 月 29 日までの間、都の大規模接種会場として活用をいたします。この会場では他の年代に比べまして、接種率が低い若年層を接種対象といたしまして、接種率の底上げを図って参ります。

今画面に出ておりますように、12 歳以上で見ますと、接種対象者 1 回目がもう、72.8%、2 回目完了が 62.5%まで行っております。これは 47 都道府県中で、3 番目に高いということ、後で確認したいと思いますが、非常に順調に進んでいると思われませんが、まだ受けておられない方、特に若年層の方々、それから 40 代 50 代の方々もそうであります。ぜひともこのワクチンを接種されることによって、自らと、そして自らの家族を守っていただきたいと思っております。

これまで都民、事業者の皆様には、長い間ご協力をお願いして参りました。そして、医療従事者の方々には、もう去年の 2 月からになりますけれども、延々患者さんのケアをしていただいたわけございまして、心から感謝を申し上げます。医療提供体制まだ赤ということでございますので、この点、気を抜くことなく、リバウンドさせることなく、進めて参るのは、医療従事者の皆様方のことを考えれば当然かと思っております。

感染状況、医療提供体制、改善傾向にはございます。ただ、ここで気を緩めると、再び感染拡大を招きかねないという思い、これは皆さんも共通の懸念かと思っております。そこで、感染についての一層の抑制、そしてリバウンドによる再度の医療逼迫を避けるための、ご理解ご協力をお願いして、終わりたいと思っております。ありがとうございました。

【危機管理監】

ありがとうございました。以上をもちまして、第 65 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。ご出席ありがとうございました。